兵庫県知的障害児者生活サポート通信

発　行　一般社団法人兵庫県知的障害児者生活サポート協会　理事長　松井美弥子
事務局　651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番18号 兵庫県福祉センター内
TEL　078-891-4177　FAX　078-891-4188

サポート協会の活動

理事長　松井　美弥子

生活サポート総合補償制度は団体保険です。兵庫県で生活サポート総合補償制度を使えるようにするために、兵庫県知的障害児者生活サポート協会を設立して3年目に入り、既に会員は約3200人に増えました。団体保険制度であることをご理解いただくためにも、兵庫県知的障害児者生活サポート協会として、会員の方への情報提供と、会員の皆様への還元が出来るような活動を地道に広げて行きたいと考えております。

平成22年度は、育成会と共催が可能な行事は積極的に取り組んでいきます。

●第1回権利擁護部会の開催の報告

・・・県育成会と共催

日時：平成22年7月22日
場所：兵庫県福祉センター
参加者は50名でした。

講師に伊賀市社会福祉協議会の権利擁護課長の田邊寿氏をお迎えして、「伊賀地域福祉後見サポートセンターの取り組み」についてお話いただきました。午後は、県下の「権利擁護システムの構築について、2市の取り組み状況を発表してもらい、田邊氏の助言を得ながら、参加者の方との意見交換をしました。各市町に権利擁護センター設立に向けては、各市町の社会福祉協議会等に働き掛けが必要であることを共通認識しました。

また、既に親族後見をされている方から、**「親族後見人フォローアップ研修」**をして欲しいとの要望がありました。早速、今年度中に計画したいと考えています。

●障害基礎年金の勉強会の開催予定

・・・県育成会と共催

特別支援学校の高等部の保護者を対象に、障害基礎年金についての勉強会を開催します。20歳になった療育手帳所持者全ての人に、障害基礎年金は支給されていません。また、就労した事で、障害基礎年金が1級から2級になった人、年金支給停止になった人もありますので、兵庫県手をつなぐ育成会と共催で、不利な立場になる人が増えないように、保護者と支援者にも研修をしてもらおうと、平成22年度は特別支援学校での開催を予定しています。

現在の予定は、平成22年9月16日阪神特別支援学校、平成22年11月5日　こやの里特別支援学校です。

特別支援学校の兵庫県知的障害児者生活サポート協会の会員の皆様にお役に立てれば嬉しく思います。まだまだ手探りの状態ですが、地道に知的障害児者の生活の向上を目指した活動をして参ります。

（県下35支部にそれぞれ代議員がおられますので、お問い合わせください。）

兵庫県知的障児者生活サポート協会
平成21年度　収支決算書
（平成21年4月1日～平成22年2月2日）

●収入の部

科目		予算額	決算額
会費収入	小計	44,820,165	49,614,060
	預り保険料	38,348,490	42,438,010
	制度運営費	6,471,675	7,176,050
雑収入	小計	10,000	1,814
	受取利息	10,000	1,814
	雑収入	0	0
預り金	小計	0	△ 860
前期繰越金		34,600	1,499,057
収入合計額		44,864,765	51,114,071

●支出の部

科目		予算額	決算額
管理費		42,981,290	47,244,938
事業費	相談支援事業	200,000	200,000
	地域生活事業	750,000	168,920
	就労支援事業	250,000	87,885
	権利擁護事業	680,000	342,225
固定資産取得支出	什器備品購入支出	0	0
予備費	予備費	0	0
支出合計額		44,861,290	48,043,968
当期収支差額		3,475	3,070,103
次期繰越額		3,475	3,070,103

一般社団法人 兵庫県知的障児者生活サポート協会
平成21年度　収支決算書
（平成22年2月3日～平成22年3月31日）

●収入の部

科目		予算額	決算額
会費収入	小計	0	0
	預り保険料	0	0
	制度運営費	0	0
雑収入	小計	0	0
	受取利息	0	0
	雑収入	0	0
預り金	小計	0	0
前期繰越金		3,070,103	3,070,103
収入合計額		3,070,103	3,070,103

●支出の部

科目		予算額	決算額
管理費		920,000	563,110
事業費	相談支援事業	0	0
	地域生活事業	0	0
	就労支援事業	0	0
	権利擁護事業	50,000	43,790
固定資産取得支出	什器備品購入支出	0	0
予備費	予備費	0	0
支出合計額		970,000	606,900
当期収支差額		2,100,103	2,463,203
次期繰越額		2,100,103	2,463,203

障害認識プロジェクト・ファシリテーター養成講座

塚本　壽子

昨年度の「家族支援プロジェクト」に続く、「障害認識プロジェクト・ファシリテーター養成講座」が大阪で開催され、参加させていただきました。

「障害認識プロジェクト」とは、知的障害者が地域で自立した暮らしをするためには、『知的障害とは何か』『障害程度によって、その人の生活世界の理解がどのようになされているのか』を的確に把握することが必要となります。そのため、家族の障害観の変革を通して、障害児者の可能性を伸ばす関わりや、生活や職業の自己決定・共同決定ができるようにしようということをめざしています。結果として、よりよい親子関係づくりに役立て、親子ともにその人らしい人生を歩んでいきやすくするものと考えられます。具体的には、

1. 全国の育成会で利用可能であり、かつ親自身が積極的に参加できるワークショッププログラムを開発・普及する。
2. 親自身の適切な障害認識（障害の部分だけでなく、わが子なりの可能性を見てかかわることができる）を促進する。本人とのコミュニケーションやニーズ把握を容易にすることで、親子がより良い関係を作っていけるようにする。

ワークのなかで、親が親として成長する４つの段階は心に残りました。⑴子供が乳幼児期、「親として」の自分づくり。「親子の関係」づくり（障害の存在を越えて）。⑵子供が学齢期、子供との関わり方を変化させる。（子供の自我の発見、子離れの練習）。⑶子供が学校を卒業するころ、本人の思いの尊重（親と違う人生を歩む一人の人。大人になりつつあるわが子を認める）。⑷成人した子供が自分なりの自立をするとき、この４つめの段階は、３つめの段階の時に、子どもの意志が親の意志よりも優先される体験や、大人になりつつあるわが子を認めるという経験をしていないと、とても踏みにくいものになってしまうようです。

また、「わが子の性格はどんな？それって障害だから？」のチェックシートでは、障害ゆえの行動、障害があることで強調される行動等もありますが、その子自身の性格や子どもを取り巻く環境、生まれた順番などが関係していることもわかり、子どもを少し離れて見れたように思いました。

このようなプログラムを、グループに分かれてワークショップ形式で７月30日・31日の２日間にわたって受講してきました。

地域生活支援助成金事業

細見　頼子

専門知識と経験豊富な作業療法士による講義や支援を受けられる環境を私たちが住む篠山市にも作っていきたいとの想いから、『発達支援勉強会』を開催することになりました。

当日は、ＮＰＯ法人発達障害を考える会ぶどうの木理事長西田香代子さんから『保護者の立場から子どもの未来を考える』、作業療法士灘裕介先生から『作業療法から見た子どものとらえ方と支援』『セッションの効果を、身体を通して感じる』と題して貴重なお話しをしていただきました。

平日にも関わらず、保護者（育成会、サポート協会会員）だけでなく保育士や介護ヘルパー、市の職員さんも参加してくれました。とても分かりやすい内容で、参加された方にも良い勉強会と言って頂きました。

続けていくことが大切で、次回は個別セッションを行い、具体的なアドバイスを頂けるようにしていきたいと考えています。

次回は２０１０年10月24日に行う予定です。

地域生活支援助成金事業実施計画一覧表

地区	No.	支　部	実施予定日
阪神南	1	尼崎市支部	10/22
	2	西宮市支部	9/7･10/6･1/12
	3	芦屋市支部	10/24
阪神北	4	三田市支部	11/16
	5	川西市支部	7/1･11月･1月･3月
	6	猪名川町支部	11/7
	7	宝塚市支部	11/26
東播磨	8	高砂市支部	9/11
	9	明石市支部	9/25
	10	東播磨支部	12月
北播磨	11	西脇市支部	12/4
	12	三木市支部	12/4
	13	小野市支部	11/20
	14	加西市支部	9/26
中播磨	15	姫路地区支部	10/3
	16	中播磨地区支部	9/7
西播磨	17	たつの市支部	23年2/19
	18	相生市支部	12/11
	19	赤穂市支部	9月 or 10月
但　馬	20	豊岡市支部	7/21
	21	美方郡支部	8/26
	22	篠山市支部	6/15
淡　路	23	洲本市支部	8/10
	24	淡路市支部	9/21
神　戸	25	神戸市支部	8/1～3/31第3金･土曜日

※詳細は、各支部代議員にお問合せください。

ＡＩＵ保険に加入して

高砂市　田中　佳子

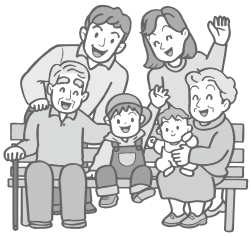
24才の息子は、通所施設に通っている重度の知的障害です。言葉で自分の思いを出すことは出来ませんが、それなりに周りの人とコミュニケーションを取り、毎日楽しく過ごしています。ＡＩＵ保険とは、小学校３年からのお付合いですが、入院給付がつく前は、一度も使ったことがありませんでした。３年前の夏の終わりに、いつもと違う様子。病院へ行くと即入院！　１ヶ月の入院生活になりました。健康だけが取り柄だったので、まさかの病気に気を付けてやらねばと思っていたのですが・・・。もう大丈夫と安心していた頃、丁度、新型インフルエンザが猛威を奮い始めた1月に、微熱が続き病院へ連れて行くとまた、即入院！「エー！」以前と同じ病院でまたしても入院することになりました。状態は、すぐに良くなり今回もすぐに退院できるかな、という願いもむなしく、血液検査の結果まちでしたが、なかなか良くなりませんでした。主治医から、「喋れないのでしっかり治ってから退院しましょう」と言われ、４月の初めに退院許可がおり、やっと家に帰ることが出来ました。

前回と違っていたのは、保険に入っていたので、最長の付添いの給付金を頂くことが出来ました。主治医の指示で個室、付添いが条件ですから、部屋代はいりません。家族の付添いにも給付されるのは、本当にありがたいと思います。給付金請求の手続きも、実に簡単で、すぐに振込まれました。

「できたらいいな」と思っていたタイプの保険が出来たこと、嬉しく思いました。でも本来は、使わない方がいいに決まっていますが、いざという時、一番に役に立つという事が大事だと思います。保険はある意味ではお守りかな？

いつもこのお守りに守られて元気に毎日が過ごせればいいなと思う今日この頃です。

これからもよろしくお願いしますと思いながら・・・。元気に毎日過ごせますように。



㈶兵庫県手をつなぐ育成会 第１回本人活動支援部会報告

細見　頼子

８月１日（日）、福祉センターにおいて県育成会の第１回「本人支援部会」が開催されました。サポート協会としても本人を支援するという理念から、松井理事長が参加をして下さいました。

西宮、のじぎくの会のみなさんをはじめとして各市町育成会から本人28名、支援者等を含め47人が参加をされました。

白梅学園短期大学教授・堀江まゆみ先生を迎え「本人」を対象に日頃から感じたり考えたり思っていることについて、楽しいだけではなく真剣な話し合いが活発に行われました。

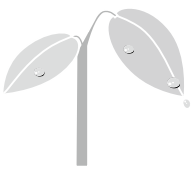
自分の夢や、やってみたいと思っている事など「どうしたら出来るのか？」具体的な事柄をみんなと意見を出し合ったり、堀江先生と共に考えました。

例えば「アパートで一人暮らしがしたい」という本人の思いに、必要な手続き、契約やお金はどうするのか、一つ一つ丁寧な話し合いが行われました。

大人としてのみだしなみについては、スライドで視覚的な提示があり、より分かりやすかったようです。

自分の思いを上手く表現出来る人、そうでない人、黙ってうなずき聞く人と様々でしたが、共にこころに残る時間を過ごせたと感じています。

２回目は、音楽療法の計画があります。是非、多くの方に参加してほしいと願っています。



平成22年7月1日現在の加入者3,163名
会員拡大に取り組みましょう!!